



Ihino Advancement Center Newsletter

日野振興センターだより

令和元年12月発行 no.27



MENU

【特集】

きらり!

日野郡の農林業

- 大山開山1300年祭
「大山寺結願式典・法要」を迎えて
- 日野川の源流と流域を守る会
～総会・講演会の開催～
- 日野郡で輝く人「ヌーバーえんちゃん」
日野郡における防災意識向上
のための新たな取組み
- 「ひの防災レクチャー」
「インシシ侵入防止柵の設置にあたってはご留意を!」
- インシシを「寄せない」対策について
—「無意識の餌付け」がもたらすもの—
- 本格的な積雪の時期が始まります!
除雪作業にご理解、ご協力をお願いいたします

日野郡の農林業

地方には高齢化や人口減少の波が押し寄せており、日野郡も例外ではありません。そのような中、郡内では、地域や農林業の維持に向けた話し合いが進められ、良食味米やトマト、白ネギ、ピーマン、原木シイタケ、間伐材の生産、和牛繁殖、JAの朝どれ野菜や直売所への出荷、農林業研修制度など、実に多様な農林業者が地域の特色を活かした取り組みをすすめており、中山間地域のモデルとして注目されています。令和元年を振り返り、特徴的な取り組みについて一部を紹介します。

きらり!

農林水産業者・緑化功労者 表彰

表彰された日野郡の方々を紹介します。



未来を担う
青年農業者
★★★
青水産業者

山本 昌樹氏 (日南町神福)
平成26年にUターン就農。2年間の親元研修を経て実家の経営を継承し、平成29年12月に農業法人代表に就任しました。
経営継承前より規模拡大し、鳥取県特別栽培農産物の認証を受け、こだわりのコシヒカリを生産しています。現在、さらなる規模拡大と経営の効率化を目指し、機械・設備導入等を計画中です。
また、高齢化の進む地域農業の若き担い手として期待され、農地の受け皿として利用集積を進めているところです。



農林水産業者
功労者
★★★

上谷 春氏 (日野町久住)
原木椎茸栽培を約40年間続け、現在は鳥取県西部地域の椎茸栽培のリーダーとして業界をけん引しています。
周囲の生産者と協力し原木の調達確保を行うなど、生産者間の連携強化を図りながら、椎茸栽培を継続できる環境づくりに取り組まれました。
培った経験と技術を次の世代にも広く伝えるため、ほた場管理や作業等を若手生産者に公開するなど、生産者の育成にも尽力しました。

10月7日、令和元年度表彰式典が知事公邸で行われ、6部門38経営体組織が表彰されました。

鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰
日野郡から2名

今年度は、コンテスト申込用紙に収量記載欄を設けました。日野郡産米改良協会では、その結果を整理し、今後は収量向上などについても取り組んでいく予定です。

第17回 コンテスト上位入賞者のみなさん

賞	氏名	(町)
最優秀賞	高橋 秀紀	(日南町)
優秀賞	日南町海藻米研究会	
	三上 博二	(日南町)
	上谷 修	(日野町)
	一三 裕一	(江府町)

「日野川源流米コンテスト(主催:日野郡産米改良協会)」は、今年で17回目を迎え、旧日野郡で栽培されたお米が、148点出品されました。田植時期や肥料、水管理などに気を配り、いずれも農家の皆さんの自慢のお米です。コンテストでは、食味計や穀粒判別器などによる1次審査を通過した4点の中から、農と食のフェスタ(10月20日開催)米子コンベンションセンター)の来場者200名の実食と投票により、日南町の高橋秀紀さんのコシヒカリが最優秀賞(知事賞)に選ばれました。
こうしたイベント等を通じて、日野郡産米の「食味」の高さは知られるようになりましたが、近年増えてきた高温等の気象変動に強く、安定した収量や品質(粒の太りがよく病虫害のない米)を確保することも重要になっていきます。



令和元年度鳥取県畜産共進会が10月5日(土)、鳥取県中央畜産市場で開催されました。地区予選を勝ち抜いた46頭が出品され、和牛改良の成果を競い合いました。日野郡内の主な成績は表のとおりです。



連産牛表彰は、10産以上で、繁殖性が特に優れた雌牛を表彰するものであり、生産者の細やかな飼養管理の賜物といえます。本年度の表彰は、県下でもわずか4頭でした。また、三森さんは、西部酪農同志会会長等々を歴任され、西部地区の酪農振興に大きく貢献されたことが表彰につながりました。

【和種々牛の部】

出品区	賞	出品牛	生産者(町)
若雌1区	優等賞7席	まつり号	梅林 征人(日野町)
若雌2区	一等賞1席	ふくはつえ号	中田 誠(日南町)

【表彰】

賞	出品牛	生産者(町)
連産牛表彰	ももか号・たえ号	山形 美智也(日南町)
酪農功労者表彰	-	三森 一夫(日南町)



梅林氏とまつり号

中国・四国地区 緑化功労者表彰 江府町立江府小学校が 表彰されました



表彰を受けた江府小代表児童と白石江府町長

この表彰は、中国・四国地区で緑化推進に功績があった個人・団体を表彰するもので、今年度は5名の個人と3団体が表彰されました。

江府小学校では、江府町の森林を大切に守り育てようと、10年前から、4〜6年生の児童が、総合的な学習の中で「ブナの採種・播種・育苗・植樹」を行う「ブナの実プロジェクト」に取り組んでいます。森林を再生する活動であるプロジェクトを通じて、郷土の豊かな自然や森林と水との関係を学ぶと同時に、郷土を愛する気持ちが育まれています。
今回の表彰は、日野郡からは団体として初めての表彰で、11月9日江府町長から江府小学校へ表彰状が伝達されました。

蜜蜂を飼育される方へ



蜜蜂を飼育される方は、毎年1月31日までにその年の「蜜蜂飼育届(1月1日~12月31日の飼育計画)」を県に提出をお願いします。
これは養蜂振興法の規定によるもので、趣味の養蜂も対象となっています。提出先は、日野郡にお住まいの方は日野振興センターです。所定の様式、手続き等についてご不明な点がございましたら、下記の問合せ先にご連絡ください。

日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2004 FAX:0859-72-2011
日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2024 FAX:0859-72-2090

米
高橋さん(日南町)最優秀賞!
日野川源流米コンテスト

牛
日野郡の和牛畜産!
鳥取県畜産共進会

梨
日野郡産「新甘泉」
好成绩で終了!



【新甘泉の特長】

- 鳥取県の育成した赤ナシ系の新品種
- 糖度が高く、13~14度
- 果肉は青梨のようなシャリシャリした食感



収穫体験の様子
果樹担当 杉編副主幹の概要説明
「作業しやすい、ジョイント方式の仕立です」

奥大山農業公社(江府町)は、平成26年から江尾地内で13アールの梨栽培を開始し、今年度は着果2年目を迎えました。公社職員の熱心な管理により、生育、着果とも良好で、他産地の生産者からも高い評価を受けました。今年度は、玉太りも良く、目標を大きく上回る2.3トン(5、368玉)を出荷しました。
また、8月31日、町民を対象に初めて開催した「収穫体験」では、20名以上の参加がありました。栽培してみたいという声もあり、「新甘泉」の注目度は年々高まっています。

地域のために ~人情とコミュニケーションも運ぶスーパー~

「スーパー えんちゃん」(経営:合同会社 えんちゃん)

代表社員 遠藤敏彦さん(鳥取県日野郡江府町久連)

「スーパー えんちゃん」は、今年10月5日にオープン1周年を迎えました。「えんちゃん」は、遠藤さんが、地域を守りたいという強い思いから、町、県のサポートを受け、勤務していた「地域スーパー あいきょう」から江府地域の事業を引き継いだものです。江尾と神奈川の2店舗のほか、「ひまわり号」(3t車)と「こまわり号」(軽自動車)の2台の移動販売車で、月曜から金曜まで、江府町のほぼ全ての集落を従業員と共に回っています。

標高の高いところにも集落が点在する江府町では、高齢化が進み、住民の生活を支える買い物支援は重要なサービスとなっています。移動販売は、集落の住民同士がコミュニケーションを取る場でもあり、常連の住民の方の顔が見えないと、遠藤さんや従業員の方はその方の家まで足を運んで様子を尋ねるなど、住民の健康状態についても気を配っています。遠藤さんは、店舗の経営、移動販売のほか、75才以上で一人暮らしの住民の見守り活動も行うなど、江府町役場と連携しながら、地域の暮らしを守るため頑張っています。



ひまわり号

「ひまわり号」は車内が「店舗」に早変わり。冷蔵庫、冷凍庫も備え、買い物する楽しさを感じることができます。



こまわり号

「こまわり号」の巡回に合わせて、集落の皆さんが集まります。肉、魚などの生鮮食品、野菜、菓子、日用品など、ひととおりの品物が揃います。



同日野振興局 地域振興課
電話:0859-72-2086
FAX:0859-72-2072



ひの防災レンジャー

日野郡における
防災意識向上のための新たな取り組み

日南小学校の5年生を対象に
防災教育を実施しました。



活動目的

近年、台風や集中豪雨等により、全国各地で土砂災害や水害が発生しています。そこで、土砂災害・水害に関する防災教育に取り組み、防災意識の重要性等を伝えます。

活動内容

土砂災害や水害、ハザードマップや5段階の警戒レベルの学習、土石流模型による実験やドローン飛行による調査実演の見学等を実施します。

活動結果

模型やドローンに興味を示してもらうことができ、スライドで説明した内容についての問いかけに積極的に答えてもらうことができました。また、自宅付近の避難場所を把握している児童、日南小学校の裏に砂防ダムがあることを知っている児童がいることから、防災への意識・関心の高さを感じることができました。

さいごに

今後も、小学校や中学校、地区の集まり等にて、より多くの出前説明会を実施したいと考えていますので、どうぞお気軽にご連絡ください。



模型による実験



スライドによる防災学習

ひの防災レンジャー

西部総合事務所日野振興センター
日野県土整備局の職員で構成する
土砂災害・水害に関する防災教育
を実施するプロジェクトチーム



ドローン実演



同日野県土整備局 河川砂防課 電話:0859-72-2055 FAX:0859-72-0400



伯耆国「大山開山」1300年祭

大山開山1300年祭 「大山寺結願式典・法要」を迎えて

「大山開山1300年祭」の結びを意味する「結願式典・法要」が、10月24日に大山寺本堂で開催され、3年間にわたる行事の節目を迎えました。

日野郡でも、「福万来ホテル乃国」、「たたら2Weeks」、「奥大山古道ウォーク」などの関連事業を展開し、盛り上げてきました。

また9月には、米子市で開催された刀剣展「菊水刀〜伯耆国が育んだ近・現代の名匠 森脇正孝〜」で奥日野の「たたら製鉄」関連の展示を行い、多くの方々に知っていただく機会となりました。

さらに12月には奈良県の春日大社で開催される「最古の日本刀の世界安綱・古伯耆展」で、本県ゆかりの国宝「童子切安綱」をはじめとする「安綱」(やすつな)、「古伯耆物」の刀剣が一堂に展示され、奥日野ゆかりの印賀鋼(いんがはがね)等も展示予定です。奥日野の「たたら製鉄」を全国に向けて情報発信する場となることを期待しています。

今後も大山開山1300年祭を契機に生まれた連携体制のもと、地域資源を効果的、継続的に活用して、観光、地域振興につながる取組みとしていきます。



大山寺結願式典・法要



春日大社中門

参考

「最古の日本刀の世界 安綱・古伯耆展」

天下五剣に数えられる国宝「童子切安綱」をはじめ、国宝・重要文化財に指定されたほぼ全ての古伯耆物が集まる刀剣史上初の画期的な展覧会です。

会期 令和元年12月28日(土)～令和2年3月1日(日)
※鳥取県関連イベント 2月1日(土)予定
場所 春日大社国宝殿(奈良県奈良市春日野町160)
主催者 春日大社、読売新聞社
特別協力 鳥取県、名刀「古伯耆物」日本刀顕彰連合

同日野振興局地域振興課 電話:0859-72-2082 FAX:0859-72-2072

※大山開山1300年祭については、同実行委員会のホームページをご覧ください。伯耆国「大山開山1300年祭」ホームページ <http://www.daisen1300.org/>

日野川の源流と流域を守る会 ～総会・講演会の開催～

日野川の源流と流域を守る会では、日野川の自然を守り、恵まれた環境を次世代に引き継いでいくための活動をしています。

令和元年のイベントは、5月のホテルの棲む環境を守る活動から始まり、日野川一斉清掃&外来植物除去など日野川の流域での社会貢献活動や日野川流域でのイベント、次世代育成につながる観覧会など、幅広い年代の多くの方々にご参加いただき実施しました。

令和2年の最初の事業として、総会と講演会を以下のとおり開催する予定にしています。会員以外の方も参加できますので、ぜひご参加ください!

※総会・講演会の日時、場所、内容は変更される場合があります。

【総会・講演会】

- 開催日時 令和2年2月14日(金)
総会:午後2時～午後2時50分
講演会:午後3時～午後4時
- 講演会講師:株式会社 石田コーポレーション
代表取締役社長 石田 康雄 氏
- 場所 米子市文化ホール



ホテルの棲む環境を守る活動



自然環境と希少生物を守る体験学習会



日野川一斉清掃&外来植物除去活動

日野川の源流と流域を守る会では「会員大募集中」です。
お申し込み方法や会費などについては、下記問い合わせ先までお願いします。

同日野川の源流と流域を守る会事務局(日野振興センター日野振興局内)担当:川上・宮本
電話:0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

イノシシを「寄せない」対策について —「無意識の餌付け」がもたらすもの—

日野郡鳥獣被害対策協議会 実施隊チーフ 木下 卓也



昨年の冬から今年の春ごろまで、日野郡内各地の集落でイノシシの出没が相次ぎました。山から出てきて、国道を渡って、民家の庭先を掘り返して、民家わきの路地を通してさらに別の家の庭先へ…。周りを山に囲まれたポツンと一軒家ならいざ知らず、とても臆病なはずのイノシシが、何軒もの家が集まった集落内に侵入して食料を探すと、よっぽど魅力的な理由があるのです。このような集落を回って感じた、いくつかの要因をお話したいと思います。

イノシシから見た人里の魅力

まず初めに、集落内への侵入が夏ではなく、冬に起こっていることに着目してみましょう。冬になると食料となる資源が全体的に減少します。そこで、危険を冒して人里に侵入したと考えるのが妥当でしょう。そして、自分たちのエサになるおいしいものを発見し、何度も集落に侵入しているのです。こうなると集落の誰かが故意に餌付けしたわけではないけれど、無意識に餌付けしてしまったようなものです。では、無意識の餌付けとなるエサ資源とはどのようなものでしょうか？

「無意識の餌付け」とは…



生ゴミもイノシシには貴重な栄養源

集落のエサ資源は、大まかに言うと3つあります。1つ目が小さな家庭菜園、2つ目は野菜などの生ゴミ(堆肥にしようとしているものを含む)、3つ目が果樹です。昨春に発生したイノシシ侵入集落では、生ゴミと果樹が多い印象を受けましたので、これらについてもう少し詳しく説明します。

生ゴミといっても様々ですが、大根の葉の部分や白菜の外葉、芋の皮、柑橘類の皮などが多く見られました。これらをゴミと思わない人はいないと思います。でもイノシシから見ると貴重な栄養源です。周囲にエサ資源の乏しくなる冬の間は格別のエサになってしまいます。

次に柿や栗などの果樹が集落に多いと何が問題なのでしょう？ 春に近い冬だと、すっかり果実はなくなり、エサにはならないはず…。でも問題は秋から始まります。集落を見回すと果樹は何本も植えてあり、今では全く収穫しない木もありますよね。これらの果実を、様々な動物が冬を越すための栄養源にしています。イノシシもこっそり集落へ侵入して食べている可能性があります。気づいていないのは人間だけかもしれません。**エサがあることをこの時に覚えて、冬から春にかけてのエサがない時期に「また落ちてないかな？」と探しに来て、運よく生ごみを発見！** というような悪循環になっているのかもしれない。



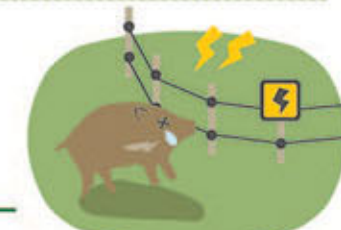
誰も収穫しない柿

鳥獣被害を受けにくい集落へ…

今やイノシシは、私たちの想像以上に「人里に行けばエサがある」と学習しているとおいたほうがよいのかもしれない。生ゴミにはコンポストの利用、柿や栗などの果樹は収穫または伐採。集落内のエサ資源を減らして、人里に寄せない対策が重要です。この寄せない対策は結果が目に見えにくいので、なかなか力が入らないかもしれませんが、漢方薬のようにジワジワと集落を被害が受けにくい体質に改善していきますので、集落全体で取り組んでみてはいかがでしょうか。

イノシシ侵入防止柵の 設置にあたってはご留意を!

—安全で効果的な正しい鳥獣対策の推進にご協力をお願いします—



イノシシ等による農業被害が全国各地で深刻化。日野郡においても同様であり、農業そして地域を守り続けるため、住民の皆さんが一体となって、侵入防止柵(以下「防止柵」)の設置が進められています。一方、防止柵の管理が不十分であったり、危険な設置となっている事例も見受けられ、正しい方法で効果的かつ安全な鳥獣対策を進めていくことが大切となっています。

日野郡ではイノシシを「入れない」対策の取組が進んでいます



ワイヤーメッシュ柵の設置作業

日野郡では、町や県などが協力して、日野郡鳥獣被害対策協議会(以下「協議会」)を設置しています。協議会では、イノシシを「入れない」対策として、集落ぐるみの侵入防止対策を地道に推進しており、地域住民の協力も得て、防止柵設置による鳥獣対策が着実に進んでいます。

過去3か年においても、日野郡内で延長100km以上の防止柵が整備されています。

道路などの管理の妨げや危険な設置になっていませんか

一般の方が利用する道路や河川などの敷地に防止柵を設置することは認められていません。点検が行えなかったり、緊急時に立ち入りができなかったりすると、災害時などに迅速な対応が行えないなどの支障が生じるためです。

また、電気柵は安全で効果の高い侵入防止柵ですが、中には、道路際に設置されている事例や法的に設置が義務付けられている危険表示板が設置されていない事例も見受けられます。

地域の防止柵が正しい設置となっているか、今一度、点検を行っていただきますようお願いいたします。



道路際に設置された危険な電気柵

道路を利用する方の安全にも配慮が必要です。また、電気柵をアスファルト際に設置した場合、通電しにくいので、十分な侵入防止効果が得られません。

道路沿いや河川沿いに防止柵の設置を検討されている皆様へ

県が管理する道路沿いや河川沿いなどに防止柵を新たに設置する場合には、日野県土整備局への事前協議、占有許可申請の手続き等が必要となる場合がありますので、設置の検討にあたっては、町農林担当課や日野振興局農業振興室に早めにご相談ください。

正しい鳥獣対策の知識を身につけるために

協議会の実施隊員は、町や集落からの要望を受けて各地域で研修会を開催しています。野生鳥獣に対する正しい知識を理解した上で効果的な被害対策を進めていただくため、積極的なご参加をお願いします。



防止柵の設置を新たに検討する際は、必ず研修を受講しましょう。



本格的な積雪の時期が始まります!



～除雪作業にご理解、ご協力をお願いいたします。～

積雪シーズンがいよいよ始まります。皆様のスムーズな通行のために日野振興センターと日野郡3町で国道や県道の除雪と凍結防止剤の散布を行っています。

天候が厳しい中で、深夜でも短時間に除雪作業を行う必要があり、住民の方にご迷惑をおかけする場合がございますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

皆様へのお願い



- ◆ 路上駐車は絶対にしないでください。(除雪作業の妨げや事故の原因になります)
- ◆ 道路上に雪を出さないでください。(交通の妨げになり、夜間の路面凍結の原因になります。)
- ◆ 大雪時には、除雪作業が遅れる場合がありますが、ご理解をお願いいたします。
- ◆ 道路除雪作業後、建物等の出入口にたまった雪の除雪は、皆様でお願いします。

除雪の季節に向けて、日野郡除雪オペレータ育成研修会と日野地区除雪車両出発式を開催しました



県の担当者からの実技説明を聞く研修生

日野郡除雪オペレータ育成研修会

11月6日(水)に除雪作業員の技術向上を目的として、日野郡除雪オペレータ育成研修会を開催しました。

町と鳥取県は、高齢化等で毎年減少している除雪作業員を確保するため、大型免許等の資格取得の経費の一部を負担することで除雪車両の操作資格取得を支援しており(<https://www.pref.tottori.lg.jp/270951.htm>)今回はこの制度で今年新たに免許を取得した方が中心となって参加されました。

研修では実際に除雪作業を行っている県の担当者から操作方法のポイントを聞いてもらい、実技研修では実際に除雪機械の操作を行い、運転のテクニック、除雪機械のトラブルへの対応を体験してもらいました。

日野地区 除雪車両出発式

11月20日(水)、日野振興センター本郷車両基地において、除雪作業への理解及び注意喚起のために、日野地区除雪車両出発式を開催しました。

日野建設業協会、日野郡3町、黒坂警察署の関係者と、根雨小学校1、2年生の児童12名が参加しました。

式では、日野建設業協会の住田会長から、除雪作業についての決意表明があり、根雨小学校の児童から除雪作業への感謝の言葉と寒い中の作業への応援がありました。

その後、小学校の児童は、除雪車両についての説明を受けたあと、展示されている除雪車両へ実際に乗車しました。

その際に県の担当者から「除雪車両の近くで遊ばず、近寄らないように。」といった注意事項の説明も聞きました。

児童から、「大きくてびっくりした。除雪車の近くで遊ばないように気をつける。」「家族にも気をつけるように伝える。」などの感想が聞かれました。



最後は参加者皆で除雪車を見送りました。

除雪に関する問い合わせ先はこちらになります。

岡日野県土整備局 維持管理課
電話:0859-72-2046・2047
(夜間、休日は 72-0321)



衣紙写真

タイトル:家内安全を願う金持青年会の獅子舞

撮影者:日野町 梅林 照男氏(写友会ひの)

撮影者コメント:金持青年会は、昭和55年から元旦に金持神社で獅子舞を奉納し、地元集落を家内安全、開運を願って回っています。一家皆は玄関に出て迎え、祈願の舞に元気をもらっています。この活動を賛美するとともに、伝統行事として継続して頂きたいと思えます。金持神社は、開運、金運の神様として全国から多くの参拝者が訪れ、日野町の観光スポットとなっています。